

群 教 セ	G11 - 03
	平24.246集

集団への所属感や連帯感を深める 学級活動の指導の工夫

— 「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した
学年の話合い活動を取り入れて —

長期研修員 井熊 和義

《研究の概要》

本研究は、学級活動において、話合い活動を充実させ、集団への所属感や連帯感を深めることを目指したものである。学校行事に向けての話合いから活動後までの児童の思いや考えを表す「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した学年の話合い活動を取り入れ、話合い活動の活性化を図った。共通の目標を設定し学校行事に向けて学年一丸となって取り組むことにより、学年への所属感や連帯感を深めることを目指す実践を行った。

キーワード 【学級活動 所属感 連帯感 学年の話合い活動 学校行事コミュニケーションファイル】

I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説特別活動編では、「よりよい人間関係を築き、楽しい生活をつくるなど、自分たちの学級や学校の生活の充実と向上のために主体的に参画し、進んで話し合い、協力して実現しようとする自主的、実践的な態度の育成」が学級活動の改善の重点として示された。平成24年度群馬県学校教育の指針には「児童の主体的な活動を通じた集団決定や自己決定ができる話合い活動の充実」が明記された。平成24年3月作成された「はばたく群馬の指導プラン」では、「集団での話し合いを通して、集団の目標を決定し、集団で実践する児童生徒の自発的、自治的な活動」の重要性が示された。このように、よりよい人間関係を築くために、児童が主体的な話合い活動を工夫し、自発的、自治的な集団活動をすることが求められている。

協力校の児童は、素直で明るく学級活動や学校行事などを積極的に取り組んでいる。しかし、学級活動における話合い活動では、限られた児童のみが意見発表したり、本音で語り合ったりせず、安易に同調してしまうという様子が見られた。そのため、学校行事の参加態度は教師の指示待ち、他の児童に追従して行動するなど、学校行事をやり遂げた達成感や、集団への所属感や連帯感の深まりを感じない場面も見られた。これらのことから、高学年として学年や学校という集団への所属感や連帯感を深める学級活動の指導の工夫が必要であると考えた。

話合い活動において重要なことは、議題に対して児童一人一人が自分の考えをもって発言し、活発な意見交換をすること。そして、意見を出し合った上で折り合いをつけ、集団決定をすることである。このような話合い活動を行った後に学校行事を実施することは、集団への所属感や連帯感を深め、自発的、自治的な集団活動につながると考える。特に、学校生活に秩序と変化を与え、集団への所属感や連帯感を深める学校行事を学校生活の充実に役立つ体験的な活動として実践させることは意義がある。そこで、学級の枠を取り去り、学年による話合い活動の充実を通して、学校行事への主体的な参加を促し、集団への所属感や連帯感を深めていこうと考えた。

本研究では、問題の意識化から学校行事の振り返りまでの活動が一連の話合い活動となるように「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れる。話合い活動の進め方の共通理解を図り、議題について十分に思考できるよう学校行事に向けての話合いから活動後までの児童の思いや考えを表す「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した学年の話合い活動を行うことにより、児童一人一人が目的をもって主体的に学校行事に参加し、学年や学校集団への所属感や連帯感を深めることができると考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

学級活動において、集団への所属感や連帯感を深めるために、「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した学年の話合い活動の有効性を明らかにする。

III 研究の見通し

- 1 「問題の意識化」の過程において「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、計画委員が議題の選定や学年の話合い活動の計画立案をしたり、児童一人一人が議題について自分の考えをまとめ、グループ内で話合い活動をしたりすれば、学校行事に参加する意識を高めることができるであろう。
- 2 「集団討議・集団決定」の過程において「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、学校行事の充実に向けて学年の話合い活動を行い、集団決定すれば、集団での自分の役割を自覚し主体的に学校行事に参加する意欲を高めることができるであろう。
- 3 「振り返り」の過程において、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、学校行事を振り返り、達成したことを確認し、成果について学年で話合い活動をすれば、集団への所属感や連帯感を深めることができるであろう。

IV 研究の内容

1 集団への所属感や連帯感を深める学級活動について

所属感とは、児童が集団の一員として、自分の役割を果たす中で、集団をよりよくしようと活動し、多くの仲間とかかわり、「自分は学年・学級集団の役に立っている」と仲間から認められたと感じたときにはぐくまれるものである。また、連帯感とは同じ目的に向かって努力し「みんなで責任をもってできてよかった」「一人ではできなかったことがみんなでやったらできた」という体験を通して、集団の価値を感じたときにはぐくまれると考える。

集団への所属感や連帯感を深める学級活動とは、児童が「集団をよりよくしていくために、自分の役割を責任をもって果たし、役に立っている。」という思いをもち、実践できる学級活動であると考えられる。

そこで、本研究では、所属感や連帯感を深めるために、学校行事の事前・事後の学級活動を充実させる。学校行事に向けての学年の話合い活動を行い、集団の目標を決め、自分の役割を自覚して取り組むことで児童が主体的に学校行事に参加することができる。その後、振り返りの話合い活動を通して、達成感や自己の成長を確認でき、集団への所属感や連帯感を深めることになると考える（図1）。

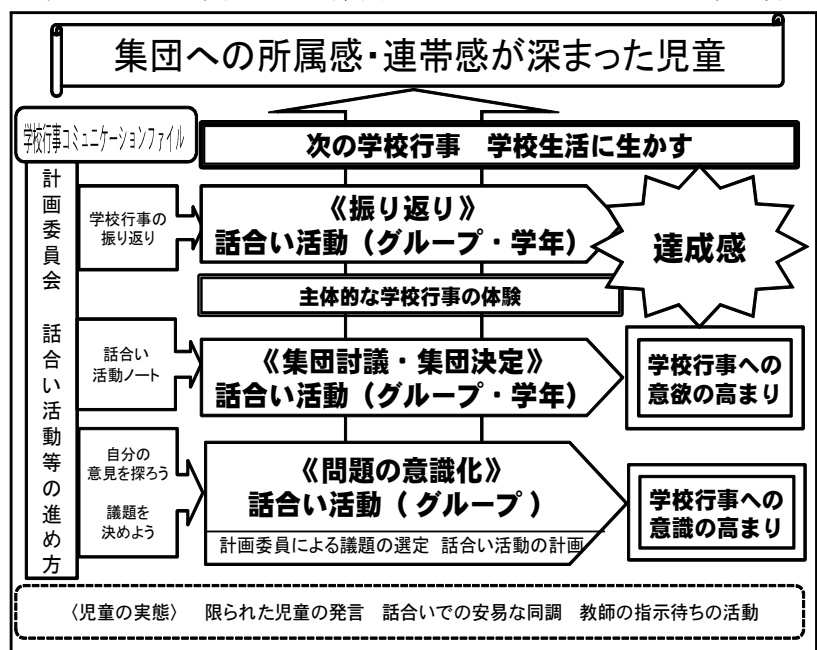


図1 研究構想図

2 「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した話し合い活動について

(1) 「学校行事コミュニケーションファイル」について

「学校行事コミュニケーションファイル」は、学校行事に目的をもって児童一人一人が主体的に取り組むために、学校行事の事前・事後の話し合い活動を一連の流れとしてとらえ、活用するファイルである。計画委員会や学年・グループの話し合い活動の進め方の手引きと児童の思いや考えを書くワークシートで構成される。

① 「問題の意識化」での活用

「問題の意識化」の過程では、計画委員が、『計画委員会の進め方』(図2)を基にして、計画委員の役割を決め、議題の選定や話し合いの内容及び計画を作成する。話し合いの内容は『議題を決めよう』(図3)に記入する。学年児童は計画委員の議題提案を受け、まず、一人一人が自分の思いや考えを、『自分の意見を探ろう』(図4)に記入する。その後、グループの話し合い活動を通して『話し合い活動ノート』(図5)に自分の意見と理由を記入する。意見は、付箋にも書く。

② 「集団討議・集団決定」での活用

「集団討議・集団決定」の過程では、前時に書いた『話し合い活動ノート』を使って自分の意見を発表する。話し合い活動後は『話し合い活動ノート』に振り返りと学校行事への思いを記入する。

③ 「振り返り」での活用

「振り返り」の過程では、まず、各児童が『学校行事を振り返ろう』(図6)で、学校行事後に学年の目標や自分のめあてなどを視点に振り返りを書く。次に、達成できたことをグループで話し合う。そして、グループごとにまとめた意見を発表し、学年全体で確認し合う。振り返ったことを、次の学校行事や日常の学校生活に生かせるようにする。

(2) 「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した学級活動の進め方について

学級活動は、計画委員が中心となっていく。議題の選定は、事前アンケートや前学校行事の振り返り、日常生活の課題などから、計画委員(教師含む)の話し合いで選定する。議題の提案理由は、できるだけ児童にとって身近で切実な内容とし、話し合う必要性を訴えるものとする。

学級活動の話し合い活動は、学級を単位として行われるが、学校行事は、学年・学校の単位で活動するため、本研究では、学年の話し合い活動を取り入れる。学年では、人数が多くなるためグループの話し合い活動を取り入れる。グループは、4～8名程度を基本とし、「学校行事コミュニケーション

計画委員会の進め方

計画委員は、話し合いの議題を決定し、計画を考え、話し合い活動の司会や記録をする役割があります。

○委員の選出
各学年から2～3名
計画委員はその年度前の学校行事とはちがう児童を選出する。

○仕事の分担と仕事内容(学年3クラスで各クラス2名選出の場合)
司会グループ…3名(司会1名 副司会2名)
司会者…話し合いを進める。
副司会…司会者を手伝う。指名を中心に行う。時計を見て、進み具合を確認する。
記録グループ…3名(ノート書記1名 黒板書記2名)
黒板記録…見やすさを考えて、出された意見を黒板に書く。短冊を掲示したり、短冊を動かしたりする。
ノート記録…黒板に書かれた意見を学級活動ノートに書く。最後に決定したことを発表する。

図2 計画委員会の進め方

議題を決めよう

話し合いの計画を立てよう

議題を決めよう

○アンケートや前学校行事の振り返り

話し合う議題

話し合うこと

話し合うときのめあて

議題提案の理由

図3 議題決めよう

自分の意見を探ろう

議題に対するイメージマップ
(知っていること・思い・友達のことを聞いて考えたことなどをたくさん書く)

学年 組 名前 ()

議題

図4 自分の意見を探ろう

話し合い活動ノート

月 日 曜日 学年 組 名前 ()

議題

話し合いのめあて(計画委員から)

決まっていること

話し合い

話し合うこと①

自分の意見	理由
自分の意見	理由
自分の意見	理由

話し合うこと②

自分の意見	理由
-------	----

意見はフせん紙にも書いてください。

話し合うこと③

自分の意見	理由
-------	----

図5 話し合い活動ノート

学校行事を振り返ろう

学年 組 名前 ()

学校行事を振り返ろう

4 できた 3 ややできた 2 もう少し 1 できなかった

① みんなで決めたスローガンに向けてがんばることができましたか。	4	3	2	1
② 自分のめあては達成できましたか。	4	3	2	1
③ 友だちとたくさん話をすることができましたか。	4	3	2	1
④ 自分の考えを友だちに伝えることができましたか。	4	3	2	1
⑤ 友だちのよい面を見つけることができましたか。	4	3	2	1
⑥ 自分の役割をきちんと果たし、学年・学校のために力を尽くすことができましたか。	4	3	2	1

○よくできたこと・がんばったこと(書かなくても構いません)

図6 学校行事を振り返ろう

ンファイル」や付箋等を用いて、児童全員で話し合いが行われるようにしていく。

話し合い活動の進行は、計画委員とグループリーダーが『学年の話し合い』『グループの話し合い』(図7)を基に進行する。

「学校行事コミュニケーションファイル」は全児童に事前に配付し、話し合いの仕方を共通理解させ、進行にも協力できるようにしていく。

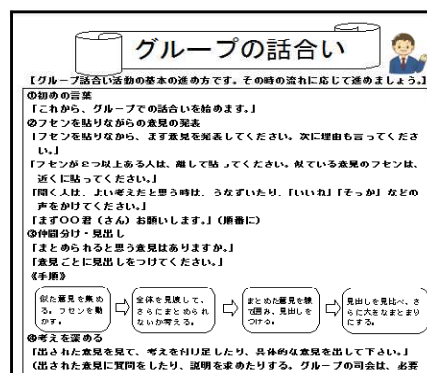


図7 グループの話し合い

V 研究の計画と方法

1 実践計画

対象	研究協力校 小学校第5学年 3クラス 計82名
期間	平成24年9月28日～11月9日 6時間
題材名	「高学年としてきまりを守り楽しいたくみの里体験学習にしよう」 「音楽発表会を成功させよう」

2 抽出児童

A	議題について、自分の考えを書くことができるが、自分の意見発表は控えめである。「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した話し合い活動を通して、自分の意見に自信をもって発表し、学校行事を通して集団への所属感や連帯感を深められるようにしたい。
B	自分の意見を進んで発表する。学校行事や学級活動は積極的に活動できる。集団の中の存在感も大きい。集団の所属感や連帯感も意識している。「学校行事コミュニケーションファイル」を活用した話し合い活動を通して、学校行事への達成感を味わい、さらに集団への所属感や連帯感を深め、学年のリーダー意識をもたせたい。

3 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	「問題の意識化」の過程において、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れて、計画委員が議題選定や学年の話し合い活動の計画立案をしたり、各自が議題について自分の考えをまとめグループ内で話し合い活動をしたりすることは学校行事への意識を高める上で有効であったか。	<ul style="list-style-type: none"> 活動前後のアンケートの比較 「学校行事コミュニケーションファイル」の内容 活動状況の観察
見通し2	「集団討議・集団決定」の過程において、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れて、学校行事の充実に向けて話し合い活動を行い、集団決定することは集団での自分の役割を自覚し、主体的に学校行事に参加しようとする意欲を高める上で有効であったか。	
見通し3	「振り返り」の過程において、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れて、学校行事を振り返り、達成できたことを確認し、成果についての学年の話し合い活動は、集団への所属感や連帯感を深める上で有効であったか。	

4 題材の目標及び評価規準

(1) 題材の目標

学校行事を充実した活動にするための目標や事後の達成できたことを確認する話し合い活動を行うことを通して、学年集団への所属感や連帯感を深めることができる。

(2) 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学校行事の充実にかかわる諸問題について関心をもち、進んで自分の考えやその理由を伝え合って協力して話し合い自主的に集団活動に取り組もうとしている。	学校行事を充実するために話し合い自分の役割や集団としてのよりよい方法について考え、判断し、集団の一員としての自覚をもち、信頼し支え合って実践している。	学校行事や学級生活をよりよくすることの大切さや話し合い活動の意義、話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

5 指導計画

行事	過程	時	活動内容	研究上の手だて
学校行事実践①	問題の意識化	事前	○これまでの学校生活や話し合い活動についてのアンケート結果と前回の学校行事「東京旅行」の振り返りを基に、計画委員が議題の選定をし、話し合い活動の計画を立てる。	○『計画委員会の進め方』を使って、計画委員が効率よく議題を選定し、話し合い活動の計画を立てる。
		1	○計画委員による議題の提案を受けて議題について自分の考えを書く。 ○グループで話し合いをする。 ○議題について自分の考えをまとめる。	○『自分の意見を探ろう』に議題について、自分の考えを書く。 ○意見交流をしたことを基に、話し合いに向けて自分の考えを伝えやすいように、『話し合い活動ノート』に自分の意見と理由を書き、学校行事への意識を高めるようにする。 ○意見は付箋にも書き話し合い活動で活用する。
	集団討議・集団決定	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">高学年として、きまりを守り、楽しいたくみの里体験学習にしよう</div> ○話し合い活動を行う。 ・進行は計画委員が行う。 〈話し合いの流れ〉 1 グループで話し合う。 2 グループごとに意見をまとめ、発表する。 3 学年全体で話し合い活動を行う。 4 集団決定をする。 ○各自で話し合い活動を振り返る。	○『話し合い活動ノート』と意見を書いた付箋を活用することにより、児童全員が自分の意見を発表し、話し合いに参加できるようにする。 ○『グループの話し合い』を基にして、話し合いを進める。 ○全体の話し合い『学年の話し合い』を基にして、計画委員が進める。 ○『話し合い活動ノート』に集団決定した内容、自分の役割、話し合い活動の自己評価を記入することにより、学校行事の参加意欲を高めるようにする。
振り返り	事前	○計画委員が学校行事「たくみの里体験学習」の実践後の話し合い活動の計画を立てる。	○『計画委員会の進め方』を使って、計画委員が議題を選定し、話し合い活動の計画を立てる。	
		3	○話し合い活動を行う。 ・進行は計画委員が行う。 (話し合いの流れ) 1 グループで話し合う。 2 グループごとに意見を発表する。 3 学年全体に発表し意見を交流する。	○『学校行事の振り返って』に達成できを中心にして振り返り、付箋を活用した話し合いを行う。達成できたことを集団で確かめることにより集団への所属感や連帯感を深める。
学校行事実践② 音楽発表会	問題の意識化	事前	○前回の学校行事、「たくみの里体験学習」の振り返りを基に、計画委員が議題の選定をし、話し合い活動の計画を立てる。	○『計画委員会の進め方』を使って、計画委員が効率よく議題を選定し、話し合い活動の計画を立てる。
		1	○計画委員による議題の提案を受けて、議題について自分の考えを書く。 ○グループで話し合いをする。 ○議題について自分の考えをまとめる。	○『自分の意見を探ろう』に議題について自分の考えを書くことで、学校行事への参加意識を高める。 ○意見交流をした内容を基に、話し合いに向けて自分の考えを伝えやすいように、『話し合い活動ノート』に自分の意見と理由を書き、学校行事への意識を高めるようにする。 ○意見は付箋にも書き、話し合い活動で活用する。
	集団討議・集団決定	2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">音楽発表会を成功させよう</div> ○話し合い活動を行う。 ・進行は計画委員が行う。 〈話し合いの流れ〉 1 グループで話し合う。 2 グループごとに意見をまとめ発表する。 3 学年全体で話し合い活動を行う。 4 集団決定をする。 ○各自で学年の話し合い活動を振り返る。	○『話し合い活動ノート』と意見を書いた付箋を活用することにより、児童全員が自分の意見を発表し、話し合いに参加できるようにする。 ○『グループの話し合い』を基にして、話し合いを進める。 ○全体の話し合い『学年の話し合い』を基にして、計画委員が進める。 ○『話し合い活動ノート』に集団決定した内容、自分の役割、話し合い活動の自己評価を記入することにより、学校行事の参加意欲を高めるようにする。
振り返り	事前	○計画委員が、学校行事「音楽発表会」の実践後の話し合い活動の計画を立てる。	○『計画委員会の進め方』を使って、計画委員が議題を選定し、話し合い活動の計画を立てる。	
		3	○話し合い活動を行う。 ・進行は計画委員が行う。 (話し合いの流れ) 1 グループで話し合う。 2 グループごとに意見を発表する。 3 学年全体に発表し意見を交流する。	○『学校行事の振り返って』に達成できを中心にして振り返り、付箋を活用した話し合いを行う。達成できたことを集団で確かめることにより集団への所属感や連帯感を深める。

VI 研究の結果と考察

- 1 学校行事への意識を高めるために「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、計画委員が議題選定や学年の話合い活動の計画立案をしたり、各自が議題について自分の考えをまとめグループ内で話合い活動をししたりすることの有効性について

(1) 結果

① 「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れた計画委員の活動について

事前に児童全員に「学校行事コミュニケーションファイル」を配付し、計画委員の役割や話合いの方法や手順の説明を行った。そして、各学級から2名ずつ計6名の計画委員を選出した。

計画委員は、まず、話合いの計画、運営ができるように役割を決め、話合いの進め方を確認した。次に、議題の選定と話合いの内容を話し合った。前学校行事の反省や実施する学校行事に向けてのアンケート結果、日常生活の様子などから、議題と話合いの内容を決定し(図7)、話合い活動計画を立てた(図8)。

たくみの里体験学習では、1学期に実施した東京旅行の「班がバラバラになってしまった」「時間が守れなかった」などの反省と学年児童全員へのアンケート結果を基に意見を出し合った。議題は「高学年としてきまりを守り、楽しいたくみの里体験学習にしよう」に決定した。話し合う内容は、行動の約束を児童全員で考えるために「5年生全員が団結して取り組むたくみの里体験学習はどうあるべきか」と、みんながまとまるための合い言葉を決めたいという児童の思いから「5年生全員が団結できるようなたくみの里体験学習のスローガンを考えよう」になった。

音楽発表会に向けての取組でも各学級からたくみの里体験学習とはちがう児童2名ずつを選び、同様に計画委員の活動を実施した。たくみの里体験学習の反省や児童の音楽発表会への思いから「もっと団結して取り組みたい」「学校の代表として成功させたい」という意見が出された。議題は「音楽発表会を成功させよう」になった。話し合う内容は「5年生全員が心を一つにして聴いている人に感動を与える音楽発表会の練習はどうあるべきか」と「音楽発表会のスローガンを考えよう」に決定した。

② 「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ自分の考えをまとめる活動について

児童は、まず、計画委員から議題の提案と提案理由の説明を受けた。次に、話合い活動に向けて自分の思いや既習体験などを『自分の意見を探ろう』に書いた。それを基に、グループで話合い活

1 議題を決めよう	
○アンケートや前学校行事の反省	
自分勝手な行動をしているときがあった。 班長の言うことをあまりきけなかった。 班行動ができなかった。 たくみの里は、楽しく思い出に残る体験にしたい。 高学年としての自覚をもち行動したい。	
話し合う議題	
高学年として、きまりをまもり、楽しいたくみの里体験学習にしよう。	
2 話し合うこと(内容)	
①	5年生全員が、団結して取り組むたくみの里体験学習はどうあるべきか。
②	5年生全員が団結できるような協力するたくみの里体験学習のスローガンを考えよう。
3 話し合うときのめあて	
5年生全員が協力して、高学年として成長できるようなたくみの里体験学習になるように、みんなで意見を出し合おう。	
4 議題提案の理由	
運動会では、競技や演技、準備など、みんなで協力して取り組むことができ、5年生も運動会成功に少し役立てたと思います。そこで、たくみの里体験学習では、5年生全体でさらに協力し、自分たちの力で楽しく行動できるようにしたいと思います。たくみの里体験学習のアンケートでは、「楽しい体験がしたい」「グループ行動をしっかりしたい」という願いを感じました。また、東京旅行の反省では、「迷子になってしまった」「班がバラバラになってしまった」「時間が守れなかった」などの反省が出されました。この反省を生かして、楽しいたくみの里体験学習になるようにしたいと思い、この議題を提案しました。	
5 役割分担	
司 会	副司会

図7 計画委員会による議題の選定(たくみの里体験学習)

役割分担	黒板記録() ノート記録()
めあて	5年生全員が協力して、高学年として成長できるようなたくみの里校外学習になるように、みんなが意見を話し合おう。
話し合いの順序 気をつけること	
1 初めの言葉	※大きな声ではっきり言う
2 役割紹介	がんばることを言う(自己しょうかい)
3 議題の確認	議題を書いた紙を黒板にはる
4 提案理由の説明	提案者をお願いをする
5 めあての確認	全員に言ってもらう(号令をかける)
6 話し合い	時間は15分
・グループの話し合い	
・全体の話し合い	時間は20分 意見が出なったら、副司会が指名する
8 決まったことの確認	ノート書記が言う
9 振り返り	時間は5分
10 先生からの話	先生をお願いをする
11 終わりの言葉	※時間内に終わるように進める

図8 計画委員会が作った学年話し合い活動計画(たくみの里体験学習)

動を行った。あらかじめ自分の思いを書くことで、一人一人の児童が自分の考えを發表することができた。話し合い活動後、再度各自で考え、自分の意見決定し『話し合い活動ノート』に自分の意見とその理由を書き、意見は付箋にも書いた。

抽出児童Aは、最初は自分の思いを書くのに時間がかかったが、話し合い活動後は、さらに自分の考えを付け足すことができた。抽出児童Bはたくさんの意見を書き、意見交流を積極的に行うことができた(図9)。

(2) 考察

事前の計画委員の活動は「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れたことで、役割分担や活動内容の把握が容易となり、話し合う必要性を強く訴える内容に高めることができたと考える。自分の意見を決める話し合い活動については、「グループの話し合い『自分の意見を探ろう』」「計画委員の提案理由」などが役立ち児童一人一人が、話し合い活動に向けて自分の意見をもつことができたことが分かる(図10)。

抽出児童の感想から、話し合い後、意識が学校行事に向けられているのが分かる。「学校行事コミュニケーションファイル」に自分の思いを書き、他の児童と話し合いをしたことにより、学校行事に対してより具体的にイメージを膨らませることができたためと考える(図11)。

以上のことから、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、計画委員が議題選定や学年の話し合い活動の計画立案をしたり、各自が議題について自分の考えをまとめグループ内で話し合い活動をしたりしたことは、学校行事への意識を高める上で有効であったと考える。

2 集団での自分の役割を自覚し、主体的に学校行事に参加する意欲を高めるために、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れて、学校行事の充実に向けて話し合い活動を行い集団決定することの有効性について

(1) 結果

学年の話し合い活動の運営は計画委員が行った。またグループ活動の充実を図るために、事前にリーダーを選出し、たくみの里体験学習では、4～5名でグループを編制した。音楽発表会では、パートリーダーを中心にして7～8名のグループを編制した。グループの話し合いは、グループリーダーが進行をした(図12)。最初に、前時に自分の意見を書いた『話し合い活動ノート』(図5)と付箋を使って一人一人が自分の意見と理由を發表した。次に、似ている意見の付箋は近くに

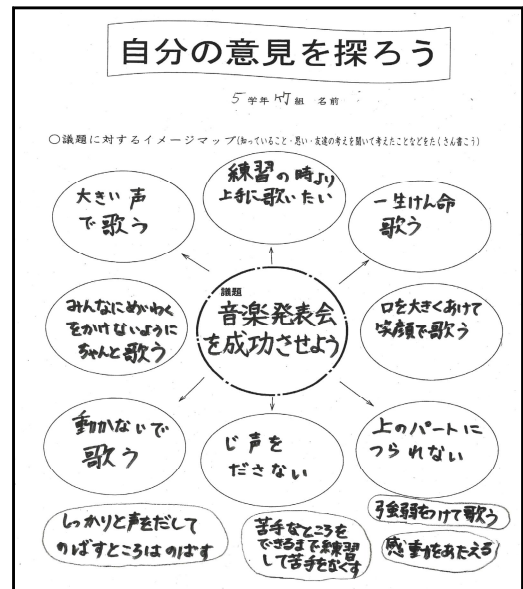


図9 抽出児童Bの学校行事コミュニケーションファイル

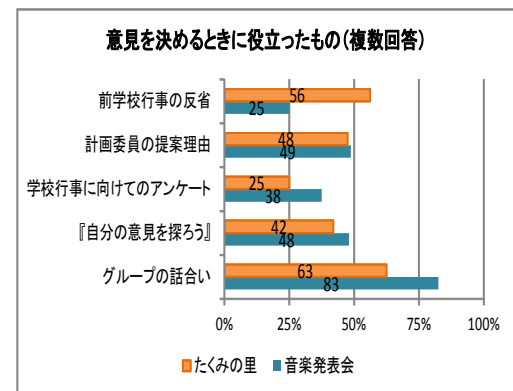


図10 問題の意識化後のアンケート結果

【たくみの里体験学習】に向けて①
抽出児童A
○このグループの協力で楽しいたくみの里体験学習にしようと思いました。
抽出児童B
○高学年としてきまりをもっと守りたいと思います。グループもまとまって行動したいです。

【音楽発表会】に向けて①
抽出児童A
○みんなの声を聞き、しっかり合わせられるようにしたい。笑顔で歌いたい。
抽出児童B
○ちがう組の子の意見が聞けてよかった。みんなで心を合わせて、感動を与えるような歌を歌いたいです。

図11 問題の意識化後の抽出児童の感想



図12 グループの話し合い活動の様子

集め、仲間分けをした。事前に自分の考えと理由を書いていたことで、学校行事に参加する思いや考えを児童全員が発表することができた。そしてグループ全員の発表後、意見を仲間分けし見出しをつけた。さらに付け足しの考えを台紙に書き込み、思いや考えを深める話し合い活動を行った(図13)。

それにより、どのグループもたくみの里体験学習で協力して行動する姿や合唱をする時の集団での望ましい姿をイメージすることができた。また、台紙に書かれた姿を見て、自分のめあてを決め、自分の役割を確認することもできた。

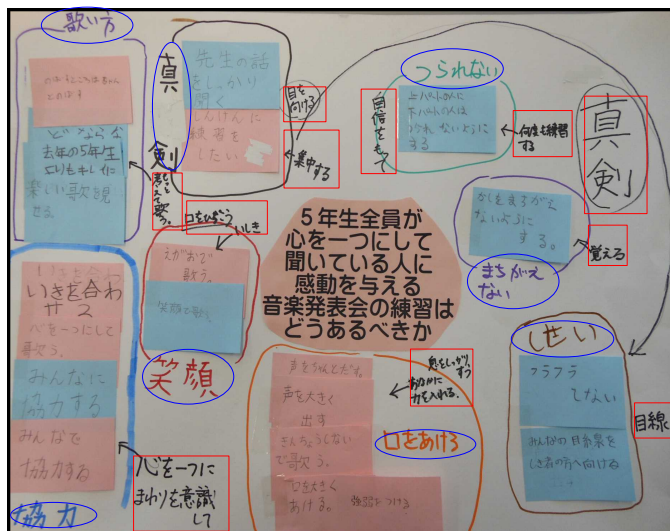


図13 グループの話し合い活動でまとめられた台紙 ○つけられた見出し □つけ足された意見

学年の話し合い活動では、まず、グループで決めたスローガンを発表し合った。スローガンを短冊にまとめ黒板に掲示をした。そして、出されたスローガンを基に賛成反対の意見を出し合った。

たくみの里体験学習では、「考えて行動しよう」「自分勝手な行動はしない」「時計を確認して時間を守ろう」「リーダーの指示に従おう」などの見出しが作られた。その見出しを確認後、スローガンについての話し合い活動を行った。各グループから「チームワーク」「協力」「仲よし」などの意見が出された。折り合いの結果、一つにしぼられ「チームワーク」に決定した。

音楽発表会では「心を一つに」「姿勢に気をつけよう」「しっかり口を開ける」「笑顔で歌おう」「心をこめよう」などの見出しが作られ、「笑顔」「スマイル」「団結」などの意見が出された。折り合いの結果、折衷案の「笑顔団結」に決定した。

話し合い活動後は、『話し合い活動ノート』に話し合いで決まったことや個人のめあて、集団に対しての自分がすべきことや自分の役割を書いた。グループの話し合いで自分たちが目指すべき具体的な姿を出していたので、全員の児童が自分のすべきことや自分の役割を具体的に書くことができた。

抽出児童Aは、グループの話し合い活動では、自分の意見をしっかり言うことができた。学年の話し合い活動では、賛成反対の意思表示ができた。抽出児童Bは、グループ及び全体の話し合い活動でも積極的に挙手をし、発言をした。また、出された意見を集約し、考えをまとめようとする意見も発言していた(図14)。

【たくみの里体験学習】に向けて②

抽出児童A
○話し合いをして協力がいいと思いました。たくみの里体験学習でも、協力や自覚をもって行きたいです。

抽出児童B
○この話し合いをして6班のチームワークが深まったと思います。よかったです。

【音楽発表会】に向けて②

抽出児童A
○スローガンの「笑顔団結」が決まったので、笑顔でまとめて歌いたいです。

抽出児童B
○私はこの班で自分の意見がたくさん言えました。友だちも、たくさん意見を言っていたので、とてもよかったです。いい話し合いができました。

図14 「集団討議・集団決定」後の抽出児童の感想

(2) 考察

計画委員による進行は、大変スムーズに行うことができ、グループリーダーも手際よく話し合い活動を進行することができた。これは、事前に学年児童に配付した「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、話し合いの方法や手順を共通理解でき、児童全員が協力できたからであると考えられる。

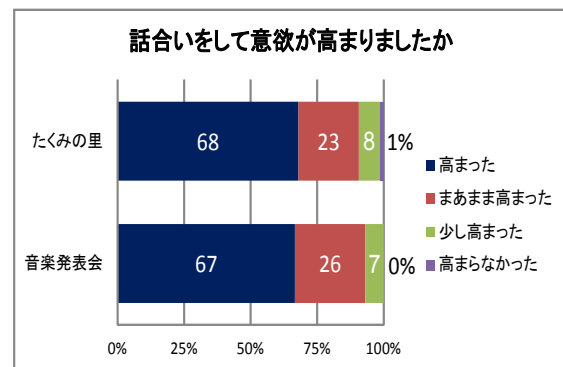


図15 「集団討議」後のアンケート結果

図15のアンケート結果から、「高まった」「まあまあ高まった」を合わせると9割以上の児童が

学校行事に参加する意欲の高まりを感じていることが分かる。

意見を深めることができたのは「学校行事コミュニケーションファイル」に、事前に一人一人自分の意見と理由を明らかにして話し合いに臨んだこと、意見を書いた付箋を使い、話し合いを可視化したことの2点が挙げられる。つまり、付箋に書いた互いの意見を比較検討し、共通点に目を向け、意見を分類したり、整理したりすることを通して自分たちの思いが焦点化していったと考えられる。その結果、集団決定が容易となり、集団としての自分の役割を自覚し、主体的に学校行事に参加する意欲が高まったと考える。しかし、学年全体の話し合い活動は、折り合いをつけることが難しい面も見られた。児童が折り合いをつけやすくするために「学校行事コミュニケーションファイル」の内容を改善し、活用方法を工夫したりしていきたい。

以上のことから、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、学年での話し合い活動を行ったことは、集団への自分の役割を自覚し、主体的に学校行事に参加する意欲を高める上で有効であったと考える。

3 集団への所属感や連帯感を深めるために「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れて、学校行事を振り返り、達成したことを確認し、成果について学年で話し合ったことの有効性について

(1) 結果

たくみの里体験学習では、どのグループもスローガン「チームワーク」を意識して、行動計画を立てたり、グループの約束を決めたりした。音楽発表会では「笑顔団結」のスローガンを合い言葉にパートリーダーを中心に合唱練習に励んだ。

当日は、たくみの里体験学習では、集団での自分の役割を意識し、友達に声をかけながら行動することができた。音楽発表会でも、集団での自分の役割を意識し、口を大きく開け、精一杯歌うことができた。観客席にいた学校長、他学校の教師、保護者などから賞賛を浴び、達成感を感じることができた(図16 17)。

振り返りの活動は、まず『学校行事を振り返ろう』で、各児童が学校行事の取組を自己評価したり、達成できた事柄を具体的に書いたりした。達成できた事柄は、付箋にも書きグループの話し合い活動で発表しながら台紙に貼った。グループの話し合い活動は、前時の話し合い活動と同様に、付箋を貼りながら発表し、仲間分けをした。一人の児童が発表すると、自然と拍手が出るなど、温かい雰囲気の中で話し合い活動が行われた。その後、グループで話し合ったことを、学年全体に発表し、達成できたことをみんなで確かめ合った。たくみの里体験学習では「チームワークが守られた」「自分の役割ができた」「真剣に体験できた」などが出された。音楽発表会でも、「笑顔団結ができた」「口を大きく開けた」「曲にのって歌えた」などの意見が出された。

(2) 考察

図16から、「できた」「まあまあできた」「少しできた」まで含めると、学校行事を通してすべての児童が達成感を感じることができた。これは、学校行事前に「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、学年の話し合い活動を行い学年児童の共通目標を設定し、その目標に向かって

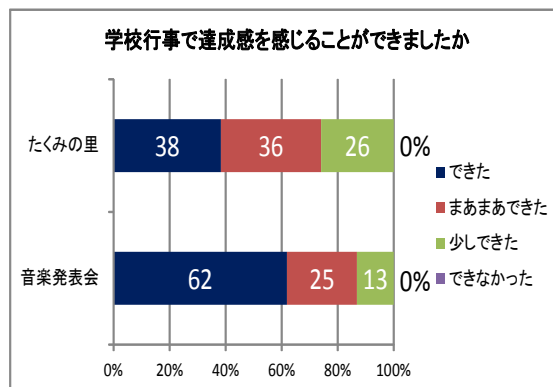


図16 学校行事後のアンケート結果

【たくみの里体験学習】を行って
抽出児童A
○楽しく体験ができて、いい思い出になった。
抽出児童B
○チームワーク良く活動できた。友だちとたくさん話し協力できた。

【音楽発表会】を行って
抽出児童A
○スローガン通り笑顔でしっかり合わせて歌えた。心を一つにして歌えた。
抽出児童B
○スローガンが『笑顔団結』が達成できた。曲にのって心を込めて歌えた。これからも、みんなと団結して取り組んでいきたい。

図17 学校行事後の抽出児童の感想

学年が一丸となって、活動できたためであると考える。また、達成できたことを「学校行事コミュニケーションファイル」に表し、一緒に活動した仲間と意思を確かめ合ったり、認め合ったりしたことで、達成感をより確かに感じることができたと考える。図17の抽出児童の感想からも、他の児童と力を合わせて取り組めたことで、達成感を感じ、二つの実践を通して、集団で活動するよさを感じ、集団の所属感や連帯感が、さらに深まったことが分かる。

所属感・連帯感の意識の事前事後の変容を見ると実践後の学年への集団意識が高まっていることが分かった（図18）。これは、児童が学校行事に主体的に参加したことで学年の一員としての役割を果たしたり、学年集団で団結して同じ目標に向かってやり遂げたという達成感を味わえたりできたためである。

以上のことから、「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、学校行事を振り返り、達成できたことを確認し、成果を学年で話し合ったことは、集団への所属感や連帯感を深める上で有効であったと言える。

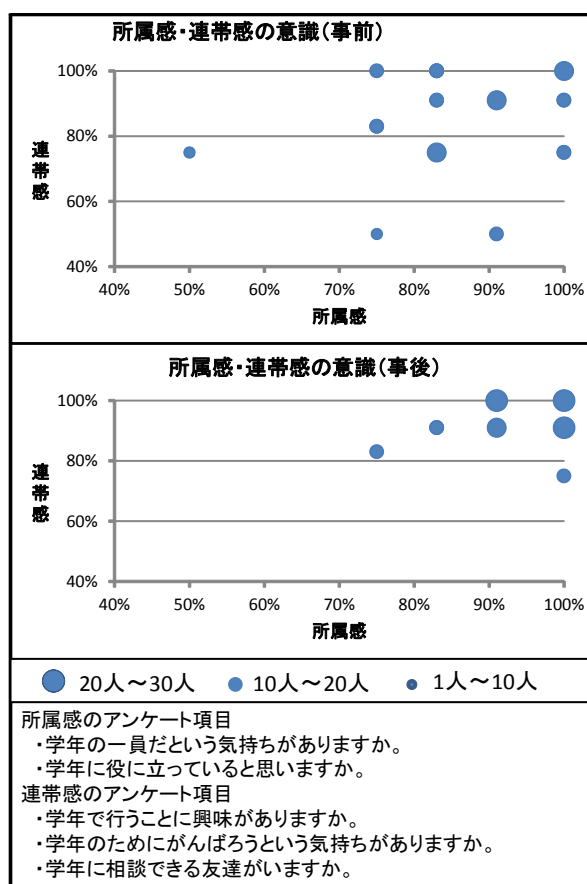


図18 実践前・実践後のアンケート結果

Ⅶ 研究のまとめ

1 成果

- 「学校行事コミュニケーションファイル」を取り入れ、計画委員が議題の選定や学年の話合い活動を計画したり、児童一人一人が議題について自分の考えを明らかにし、話合い活動をしたことで、学校行事への意識を高めることができた。
- 学年の話合い活動を実施し、学年共通目標を設定することにより、学年が一丸となり、学校行事に主体的に取り組むことができた。同じ目標に向かって活動できたこと、達成できたことを児童全員で確認し、児童全員で達成感を味わったことで、学年集団の所属感や連帯感が高まった。

2 課題

- 本研究では、遠足・集団宿泊的行事と文化的行事を取り上げ、学年の話合い活動を実践をしたことで一定の成果を上げることができた。今後は他の学校行事の事前・事後の話合い活動でも対応でき、汎用性のある「学校行事コミュニケーションファイル」の様式に改善していきたい。
- 集団意識を高める上で、学年の話合い活動は有効であった。しかし、同学年の学級数が多い場合は、折り合いをつけることが難しく、集団決定に至るまでに時間を要することも考えられる。学校行事の実情に応じ、話し合う内容を精選し、話合い活動の時間の設定については学年等で十分検討する必要がある。

<参考文献>

- ・菊池省三 著『話合い活動を必ず成功させるファシリテーションのワザ』 学事出版 (2011)